

第13回北農研サイエンスカフェ「クラークの丘から」開催要領

1. 趣旨

北農研では、市民との双方向コミュニケーションを行うことで農業研究への理解促進を図るため、サイエンスカフェを開催しています。今回は、GAPに関する研究紹介です。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの選手村などで使用される食材調達の基準として、GAPの活用が検討されています。GAPとは、Good Agricultural Practiceの略称で、「農業生産工程管理」と訳されていますが、近年、農業界では農産物の輸出促進という点からも、このGAPへの関心が高まっています。

GAPとは、食品安全・労働安全・環境保全に関して、農業におけるコンプライアンス経営を実現するためのツール（行動指針）といえます。そして、GAPの実施に当たっては農業生産活動の各工程において記録を取ることになるので、そうした記録をもとに経営内の問題点を抽出し、改善を図ることで、経営改善を達成するという事例も見られます。

このGAPを我が国の多くの農業者や産地が取り入れることにより、食品安全や労働安全の確保、環境保全が達成され、さらに、販売先や消費者からの信頼性向上や、農業経営の改善につながることを期待されます。このGAPについて、生産者とのお話も交えながら市民の皆様と語り合う機会とします。

2. 開催日時 平成28年3月6日（日）13:30~14:30

3. 開催場所 株式会社スペースタイム
〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目1-9 SCビル1階
TEL011-716-1357

4. 内 容

テ ー マ 「オリンピックで選手は何を食べる？—信頼される農場をめざして！—」

話 し 手 田口 光弘（農研機構 北海道農業研究センター）

春名 正義（有限会社興農社）（GAPを取り入れた経営を行っている）

司 会（ファシリテーター）

中村 博志（農研機構 北海道農業研究センター）

5. 参加費 無料

6. 参加定員 30名

7. 主 催 農研機構 北海道農業研究センター